

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教188年3月1日
発行責任者 福西 努
発行住所 甲賀町上野461番地9

3月号 N0296



各組ごとに実施



江南支部 6月1日 日曜日

おたすけは温かい言葉がけから

ある家庭の話です。ご主人が、夜遅くに仕事から帰ってきました。朝から晩まで働きづめの毎日で、心身ともにボロボロです。思わず「もう仕事を辞めたい」と、奥さんにこぼしました。すると奥さんは、「何を言ってるんですか。子供と寝たきりのお母さんがいて、わが家はいま大変なんだから、辞めるなんてとんでもない。休まず働いてください」と、ご主人にねぎらいの言葉一つかけるわけでもなく、取り付く島もありません。

がつくりきたご主人は、母親の部屋を訪ねました。「母さん、ただいま」と声をかけると、母親は横になったまま、「おかえり」と優しく迎えてくれました。そして「おまえ、仕事がつらいんだらう。かわいそうになあ。代わるものなら代わってやりたいなあ」と。

ご主人は、「この母がいるから、つらい仕事もなんとか続けようと思えるんです」と話していました。

母親の言葉からは、息子への愛情と優しさが伝わる一方で、奥さんの言葉は冷たい。この家に奥さんしかいなかったら、ご主人はどうに仕事を辞めていくでしょう。

温かい言葉がけは、人の心を温め、勇ませます。そして、冷たい言葉は人の心を萎ませます。

たとえば、身上や事情で悩み苦しんでいる人に、「心のほこりが原因なんだから、一生懸命掃除しなさい」と諭しても、その人の信仰心によほどの素地がない限り、たすかりにはつながらないでしょう。これが、「私も掃除のお手伝いをさせていただきますよ」だったらどうでしょうか。

「あなたの心の窓ガラス、外側は拭いてあげましょう。でも、内側は無理だから、あなたが自分で掃除してくださいね」

ああしなさい、こうしなさいと、上から厳しく命令するだけでなく、「私も一緒に」と優しく寄り添うことで、相手はホッと安心し、頑張りうという気持ちも湧いてくるだろうと思います。雑巾がけをするとき、バケツの水が

冷たかったら、手を入れるのをためらいますよね。でも、温かいお湯が足されてぬるま湯くらいになっていたら、スツと手も入れられるし、汚れも落ちやすくなります。相手の心をふわっと軽くして、その気になってもらう。これが真実あるたすけ心です。

こちらがいくらたすかりを願っても、本人が自分の癖性分を自覚して、心を変える努力をしない限り、本当のたすかりにはつながりません。だから、そのことに早く気がついて、心の向きを変えてもらえるよう、温かい言葉をかけ、優しく手を引いて導いていただきたいと思えます。

“みちのとも”から一寸いい話 身をもって感じたご守護

稲毛まゆみ 大曲分教会長夫人



幼いころから神様のお話を聞いていましたが、信仰心はなかなか育たず、大人になっても目に見えない神様のご

守護を実感できないまま日々を過ごしていました。そんな私が神様の存在を確信したのは二十代半ばのことでした。

大学卒業後、修養科と教会での住み込み生活を経て、翌年の春に天理教校本科実践課程に進学しました。教理の勉強に加えて、おてふりの修練や布教実修など、おちばでの2年間はあつという間でした。

2年生の冬、天理教海外部からオセアニア出張所での伏せ込みのお声が掛かり、実践課程を卒業後にオーストラリアのプリズベンへ行くことになりました。

日本を離れるに当たり、忘れてはならないことがありました。それは、伏せ込み期間である1年分の薬の確保です。教会住み込み中に無月経の身上を頂き、ホルモン剤を服用していたのですが、おちばで2年を過ごす間にも身上が回復することはなく、薬を服用すれば順調に来る月経も、服用を怠ると止まってしまう状態が続いていました。病院に事情を話して1年分の薬を処方

してもらい、オーストラリアに向かいました。

当時のオセアニア出張所には、所長のご家族のほかにも、青年さんと女子青年が、私を含め2人ずつ勤務していました。覚えなければいけないことは山ほどあり大変でしたが、自然に恵まれた出張所の環境は心地良く、毎日が楽しく過ぎていきました。時折、母に連絡していたのですが、決まって「薬はちゃんと飲んでいるの？」と尋ねられました。無月経が続くと将来妊娠しにくくなる恐れがあり、母は私以上に私の身を案じてくれていました。

そんななか、青年さんの一人が体調を崩してしまい、勤務もままならなくなつて、やむなく帰国することになりました。残された青年さんも、一人で2人分のひのきしんをするなど頑張っておられました。無理がたたつたのか体調を崩し、部屋から出られないほど体が痛むと訴える日が増えていきました。その結果、所長の用務にまで支障が出るようになってしまったのです。

この事態を受けて、私は「自分でできることは何でも精いっぱいさせていただけよう」という気持ちになりました。出張所内の事務的な役割は、海外部員であるもう一人の女子青年さんが担ってくれていたもので、「私にできることはひのきしんだ」と、自分の時間はすべてお供えして、青年さん2人分のひのきしんをできる限りつとめると心に決めました。

それからは、ひたすらひのきしんに励みました。出張所の敷地は広く、落ち葉掃き一つにも、とにかく時間がかかります。女子青年としての務めの合間に、休むことなくひのきしんを続けました。「なんとか出張所のお役に立ちたい」、その一心でした。

そうしているうちに、自分の身上のことも薬の服用も忘れてしまつていくことに気づきました。自分自身に構っている余裕がなく、「母には申し訳ないけれど、いましばらくは……」と、服薬をやめてしまいました。

自分の時間をお供えすると決めてか。

らひと月経ったところ、月経が来たので
す。夢でも見ているのかと思うほど驚
きました。が、瞬時に、

月日にわどんなところにいるものも
むねのうちをばしかとみている

(十三 98)

というおふでさきが思い浮かびました。
青年さんが1人去り、残った青年さん
も倒れてしまい、その分を何とかつと
めさせていただけこうと、遮二無二ひの
きしんに打ち込んだ私の心の内を親神
様は見てくださっていたのだと思い、
深い感激に包まれました。それまで漠
然としか理解できなかった親神様・教
祖のご守護が、ようやく身をもっては
つきりと感じられた瞬間でした。

まだ幼い私の子供たちも、いつの日か
神様のご守護を感じてくれる人に育つ
よう願うばかりです。私たち人間は親
神様の大きなご守護の世界で生きてい
ること、陽気ぐらし世界を実現する
ために生かされていることをいつか理
解してもらえるように、一番身近なお
手本として頑張る毎日です。

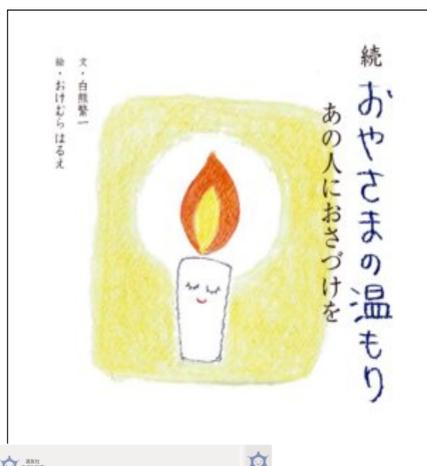
道友社新刊案内

続 おやさまの温もり

文・白熊 繁一

絵・おけむら はるえ

定価：330円



ようこそおかえり天理

定価：550円



心に吹く風

茶木谷吉信 著

定価：千円



3月支部にをいがけデー

3月28日午前9時より

拠点教会 大原郷分教会

甲賀町神1750番地の1